

● 「青年の船」で中国へ 七五年九月

各国青年との交流をめざす「青年の船」事業で、今回は中国が交流対象だった。青少年行政の責任者らとともに知事秘書として随行することとなり、四〇〇名の青年と横浜港から中国船「耀華号」で出港、一路上海へ向かった。私は初の訪中だった。

栈橋の声援にこたえブリッジに 昇ろうとするも押しもどされる

(ブリッジに上られるのは課長以上と言われる)

兄たちが銃剣持って渡りたる 東シナ海友好のため航(ゆ)く

文革の毛沢東に失望す 人民公社の赤貧に声無し

(上海郊外の人民公社にて。文革末期で中国社会はどん底にあった)

農民の目は空ろなり農作業 生氣失せたる人民公社

白菜の車引きゆく若者の 上半身に肋骨(あばらばね) 見ゆ(上海市内にて)

若者の目はかがやきて貧しさに 抗するがごとく街角に佇つ

長城に登りてはるか青春を 想えば不意に胸熱くなる

(八達嶺にて。若き日、中国に志して東京外語大中国科に入学した)